湘南慶育病院

症　例　概　要　症例概要

患者氏名：A様　50代男性

病　　名：左膝化膿性関節炎

入院期間：2025年2月中旬～ 2025年4月中旬

【経過】

糖尿病性ケトアシドーシス、左化膿性膝関節炎で前院入院。膝の手術を施行して、経口血糖降下薬で血糖コントロール後、2025年2月中旬に当院に入院となる。

【生活歴】

一軒家にて10人家族、独身。元々のADLは自立。スーパーのパートを週に5回行う。本人の家での家事等の役割はなし。休日は駅まで自分の好きなものを買いに行くことを楽しみとしていた。

内　　容

【入院時】起立性低血圧により、離床時の血圧の低下がみられ、更に左膝の痛みもあり積極的な離床は困難であった。加えて、左膝屈曲可動域が25°でありズボンや靴下を履くなどのADLに制限がある状態であった。本人からは「身の回りのことが自分でできるようになりたい」「また歩いて買い物にいけるようになりたい」、家族は「松葉杖でもいいので自宅のトイレに行けるようになってほしい」と希望されていた。

【問題点】起立性低血圧があり積極的な離床が行えないことや膝関節の可動域制限と痛みがあり下衣動作や歩行が行えない状態であった。更に糖尿病に対する生活習慣や管理が行えておらずHbA1Cの値は8.1と高値であり、再発リスクがあった。

【チームアプローチ】自宅退院に向けて、セルフケアが自立すること、歩いて買い物に行けるようになること、再発予防として糖尿病の管理が行えることを目標にチームアプローチを開始した。多職種でのカンファレンスでは離床を進めていくために血圧の管理や弾性包帯を下肢に巻くことの検討を行った。リハビリでは歩行獲得、ADLが自立して行えるよう関節可動域訓練、筋力訓練、歩行訓練、ADL訓練を中心に実施した。看護師はリハビリ1時間前に弾性包帯の着用を実施した。また、更衣動作練習として介

護士の見守りのもと自助具を用いて更衣動作の練習を行った。糖尿病の管理として栄養科は栄養指導、薬剤師は薬剤指導を行った。

①日常生活の再獲得に対しての取り組み

膝の屈曲制限がありズボン、靴下を履くことが困難であった。代償手段として自助具を用いて更衣動作練習をリハビリスタッフ、看護師、介護士とで支援を行った。

②買い物が出来る様になるためのアプローチ

血圧の変動を見ながら下肢に弾性包帯を巻き離床を進めて行った。3月上旬頃より血圧の変動が落ち着いてきたため松葉杖を使用積極的な歩行訓練を実施した。3月中旬ごろには安静度が松葉杖歩行自立となり、3月下旬頃には屋外歩行や階段昇降が可能となった。退院前には院内の売店で買い物が行えるようになった。

③糖尿病の管理に向けた連携

栄養指導として管理栄養士が栄養指導を実施した。また薬剤指導に関しては薬剤師が薬剤指導を行い糖尿病の管理について説明をした。リハビリでは運動習慣を図るために歩行訓練や運動指導を行った。

【結果】ADLとしては松葉杖歩行が自立となり屋外歩行や階段昇降が可能となり院内の売店での買い物も自立して行けるようになった。また、下衣動作に関しては膝の可動域制限に大きな変化はなかったため、自助具を使用して下衣動作が可能となった。糖尿病の管理については栄養、薬剤指導、運動指導を行いHbA1Cの値が6.1と減少した。これらのことからご本人様の退院支援を行うにあたり他職種で関わることができ、目標が達成され自宅退院が可能となった。

【関り】

医師…病状説明、方針の決定

看護師…生活状況の観察と共有、弾性包帯の着脱

介護士…下衣の自助具の操作練習

セラピスト…心身機能の改善、歩行練習、階段昇降練習、買い物練習

栄養士…栄養管理、栄養指導

ソーシャルワーカー…退院支援